

博のおかしきは集居ての言種には、各利義を取々に、我先前にと争投の下に數つめられては、古昔のそも輔よはけにみゆれば、九條筵の打ほうけ差違をや構まし。

〔下學集〕器財 筵 采 然至四三目云朱何哉其義云後一條院與臣打雙六探筵急呼四三目心中祈念若

四三出來則使其目爲五位時采之目轉躍而成四三院大悅與筵五位而賜朱衣由之呼四三目曰朱三朱四也朱色五位之衣也又唐玄宗皇帝與楊貴妃采戰之時將真心欲重四連呼叱骰子轉成重四帝大悅賜四緋采云和漢共衣也此故

〔和爾雅〕嬀戲具 重一名下目 重二 朱三 朱四 此事二皇之事可謂暗相合者也有 重五 重六以上 骰子名也

〔和漢三才圖會〕十七 雙陸 ○中

按○中 其勝負雖在骰子至修練者隨所好出之謂之目打

重一 重二 朱三 朱四 重五 重六 俗謂之重目

〔男重寶記〕三 雙六につかふ詞字

朱三 朱四 重一 重二 重五 重六 五四 市 重目 淀 殿 蒸 欠 下端 筒 筵 局

〔和字正濫要略〕今井似閑頭書 或書の詞にもてうさんてうしと侍れども、これも重三重四とかき

て、シユサンシユシとよむべきにや、一、二、三、一、四、一、五、一、一、六、三、二、四、三、五、三、三、六、五、四、五、六、同ジ目

二ツ一度ニイヅルヲ重目ト云、或曰、習三習四トモ書也、

〔平治物語〕一 叡山物語事

四方山ノ御物語ゾ有ケル、扱モ雙六ノ筵ノ目ニ、一ガ二ツオリタルヲバ壘一ト云、二ガ二ツオリタルヲバ重二ト云、五六ヲモ壘五壘六ト申ス、是レ皆重ル儀ナルニ、三四計ヲ朱三朱四ト云、コソ心得子、是ヲ御尋候ヘカント被申ケレバ、法皇羽 鳥ゲニモトテ、信西ヲ被召テ、此由ヲ被仰下ケレ